

14. 当院における五苓散の使用経験

○福島 大輔、原田 雅史、安藤 俊平、植草 啓之、北島 悟、野本 淳  
 近藤 康介、原田 直幸、宮崎 親男、根本 匡章、周郷 延雄  
 東邦大学医学部脳神経外科第一講座(大森)

<key words> 慢性硬膜下血腫 五苓散 保存的治療 再発予防

【はじめに】

近年脳神経外科領域において漢方治療が見直されており、治療の報告も散見されている。特に五苓散は慢性硬膜下血腫に対する有用性を認めたとの報告もある。五苓散は利尿作用があるとされ、作用機序として水チャンネル(アクアポリン)の阻害によることも近年わかってきている。

当施設でも五苓散は平成 21 年 7 月に院内採用となり、以来頻りに処方されるようになっていく。当院では主に慢性硬膜下血腫に対して使用され、一定の治療効果を認めている。また、最近では慢性硬膜下血腫以外にも使用され、治療の幅を広げている。

【目的】

今回は、当施設において五苓散を使用された患者を後ろ向きに調査することにより、適正な使用および新たな疾患に対する可能性を検討する。

【対象と方法】

対象は、当施設において五苓散が院内採用された平成 21 年 7 月から平成 23 年 7 月までに五苓散を処方された患者を全例調査し、当院での使用状況および五苓散の効果に関して検討した。

五苓散の投与方法は経口または経鼻経管チューブより 7.5g/3×で行った。

【結果】

調査期間内での五苓散投与患者は合計 99 例で、そのうちフォローアップができなかった 2 症例を除く 97 例を対象とした。平均年齢は 74.7(28~104)歳、男性 66 例、女性 31 例、平均投与期間は 77.8 日間(1~227 日)であった。

97 症例中 85 症例が慢性硬膜下血腫に対する投与であった。その他の使用目的として、外傷または急性期脳血管障害による脳浮腫に対して 8 例、くも膜下出血、脳出血の慢性期の頭痛に対して 3 例、慢性硬膜下水腫に対する使用が 1 例であった。(図 0)

五苓散使用の内訳

- 慢性硬膜下血腫 85 例
- 外傷または血管障害急性期の脳浮腫 8 例
- くも膜下出血、脳出血後の慢性期の頭痛 3 例
- 慢性硬膜下水腫 1 例

図 0.

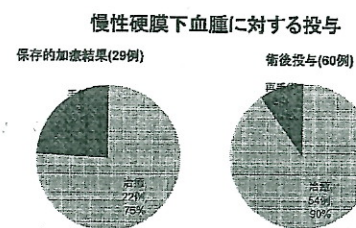


図 1.

慢性硬膜下血腫に対する使用方法としては 29 例が五苓散単独投与で保存的治療を行ったうち 22 例 76%が治癒した。7 例は最終的に手術となった。手術となった 7 例のうち 4 例は 7 日から 14 日の投与期間であった。7 例のうち術後に投与を行った症例は 5 症例で、再手術症例は 1 例であった。また術後の再発予防としての投与も行っており、術前投与した症例も含めて 60 例に投与し、うち再手術が必要となった症例は 6 例、10%であった。再発 6 例中 4 例に再手術後も五苓散投与を行ったが、3 例は再々発となった。(図 1、2、3、4、5)

64歳男性

- 腎不全で透析導入目的で当院入院中
- スクリーニング検査でCSDH指摘
- 五苓散86日投与

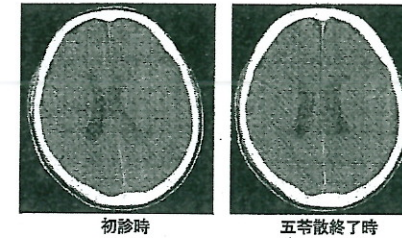


図 2.

81歳 男性

- めまいを主訴に来院。
- はじめは手術希望されず五苓散処方。
- 1週間後に右麻痺出現し手術施行術後28日五苓散投与。

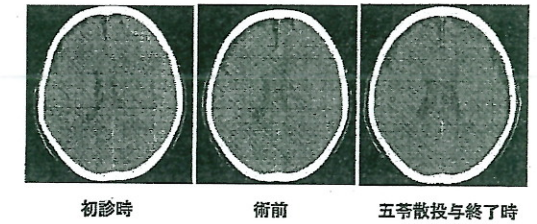


図 3.

104歳男性

- 意識障害にて来院
- 穿頭術を施行も4回再発を繰り返す
- 最終的に大開頭被膜切除術施行し治癒

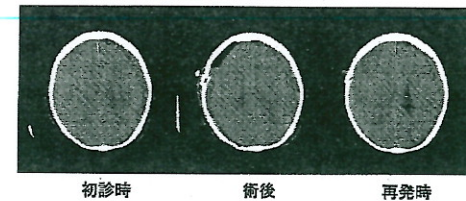


図 4.

慢性硬膜下血腫以外の経験例

- 52歳女性 くも膜下出血
- 意識障害で来院
  - 来院時JCS30、GCS8(E1V2M5)

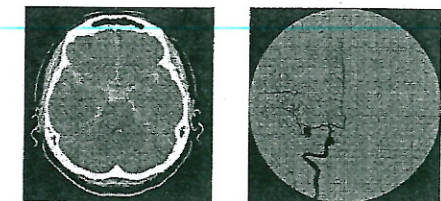


図 5.

- 27歳女性 血管腫
- 手術前に再出血あり脳内血腫型になり外減圧とした
  - 術後の脳浮腫著明であり低体温、鎮静、グリセオール、五苓散(33日)使用

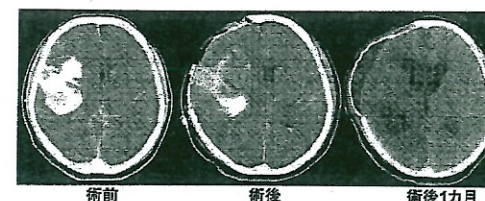


図 6.

27歳女性 血管腫

- 血管腫による脳出血にて入院
- 退院後に頭痛あり五苓散処方(発症より3週間後から)

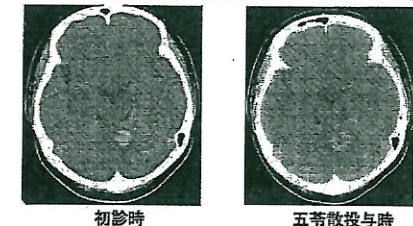


図 7.